



福祉と住環境を考える

ふくてっく

2005年1月
第62号

特定非営利活動法人
ふくてっく

559-0034大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟 11F Eビル
TEL/FAX 06-6614-6800 ホームページ http://www.occn.zaq.ne.jp/fukutech/

二月定例学習会
トイレのすべて展 基調講演

平成9年2月7日(日)
株式会社排泄総合研究所
所長 浜田 きよ子氏

* * *

排泄総合研究所は株式会社
の体をなしていますが
実はNPOみたいなもので
す。情報館「むつき庵」を
運営しており、出展企業に
お願いして、多数のトイ
レや日本中のおむつ(市販
の8割、すべて見本差し上
げられる)を展示していま
す。トイレは建築・医療と
の連携が大事。アセスメン
トが肝要、だから多くのも
のを見て考えて欲しいと思
うのです。

むつき庵を運営する中
で、トイレのことは驚き
の連続です。おむつへの抵
抗は、それまではいいて



トイレのすべて展 基調講演 ユーザーの視点でトイレを考える

たパンツの違いによるもの
です。調査によると男性の
6割はトランクスを愛用し
ているので、その解放感が
「はくパンツ」では得られ
ず、なかなかはじめないの
です。

おしっこするときの姿勢
もひとさまさまで、パンツ
の窓25%、横から10%、上
からなど・人様々ですが
おむつを選びを配慮してお
むつ選びをしないといけま
せん。男性ペニスのかい巻
きについても、上に向ける
か下に向けるか、それぞれ
に一長一短があります。同
一利用者に対して施設や
介護スタッフ個々でも、そ
れぞれの思いこみで対応が
まちまちという事がありま
す。

着物生活してきた女性の
ご老人で下着を着けてない
習慣のかたには、さてもん
なおむつがいいのしょう
か。それには、生理に対し
てどうされていたかという
ことが参考になります。

人の排泄は謎だらけで
す。明治のころは女性も立
て小用をしていました。女

性トイレにも大用、小用が
あったのです。そんな事情
がわかると痴呆高齢者の行
為にも理解できるのです。

排泄に関わる不都合には
医療的な要素が大きいので
すから医療専門家との密接
な連携のもとに、問題の原
因がどこにあるかをよく分
析する必要があります。そ
の上で解決方法を探するの
です。

おむつにもいろいろなス
タイルがあるので、概
しておおざっぱに選んでい
るのが現状です。例えば、
はくパンツでは、横に寝る
とすぐ漏れる。前に重ね
ても逆効になるばかりで
す。選び方はその人にあわ
せて、伸縮パンツタイプ・
ベルトタイプ・布おむつカ
バー(きつくて痛い)な
ど、豊富な種類から選択し
ます。最近のものは、はき
ごちよくおしやれなもの
があります。おむつだって
下着なのです。

私は、母の介護をしたと
きに、「排泄は人の尊厳に
関わる」ということを痛感
しました。排泄は日々のこ
とでありながら、話し合う
こともない。もっとおら
かに、排泄について話し、
介護支援が望まれます。

定例会のお知らせ

2月
日時 2月5日(土) 午後1時 30分～5時
場所 阿倍野市民学習センター 講堂
(あべのベルタ3階)

内容 震災フォーラム
「震災その前に」住宅・近隣・まちづく
り」

主催 ボランティア情報センター・ふくてっく・
「震災10年神戸からの発信」推進委員会

日時 3月5日(土) 午後1時 30分～5時
場所 大阪市立社会福祉センター 3階会議室
内容 未定

ふくちゃん



NPO法人 ふくてっくの鳥たち

トイレに関わる 情報発信を目指して 「トイレのすべて展」 「トイレシンポ」 を開催

排泄は障害の有無や年齢
に関係なく、毎日繰り返し
行われている行為です。誰
もが「シモの世話にはなら
ずに人生を全うしたい」と
考えています。排泄に対す
る気持ちはとてもデリケー
トですし、プライバシーや
尊厳にもかかわってきま
す。それだけに、排泄用品
の選び方は使用者にとつ



基調講演 浜田氏とモデルさ



シンポジウム

て重要な問題であり、介護
のなかでも大きなウエイト
を占めています。また、新
潟地震では、2時間待ちの
トイレなど深刻な事態も発
生、災害時のトイレ問題も
浮かび上がってきていま
す。

ところが、トイレに関す
る情報は以外に少なく、ま
だまだないがしろにされて
いる部分も多く、悩んでい
る方も多いのが現状です。
そこで、トイレに関する情
報を少しでも発信できれ
ばとの思いから「トイレの
すべて展」を開催すること
となりました。

「トイレのすべて展」
は2004年10月28日
(木)から11月7日(日)
まで、大阪南港ATC・I
TM棟 11階のATCエッジ
レスセンター内テマゾー
ンで開催、使う人の症状に
合わせた排泄用具の選び方
や地下鉄全駅のトイレマッ
プなどのトイレ情報とも
に、12社のメーカーに最新
のトイレ周辺機器を出展し
ていただきました。

毎日、見学の方も200
人からあり、新しい発想の
トイレ機器の説明にどよめ
きの声もあがり、メモをと
りながら熱心にご覧になっ
ていました。質問も多かつ
たのですが、見学時間に制
約があり、十分な説明が出
来なかったのが心残りで
す。

「排泄用具の選び方」の
パネルを読まれて、コピー
が欲しいと言われる方も多
く、この辺の情報はもっと
研究する余地があるように
思われました。中央のトイ
レ川柳コーナーではニヤリ
とする殿方もあり、ホット
するスペースになったよう
です。

最終日の11月7日には、
排泄総合研究所の浜田きよ
子さんの基調講演があり、
排泄の仕組みと用具との関
係を、会場からのモデルさ
んと共に分かりやすく説明
していただきました。その
後の「トイレシンポジウ
ム・ユーザーの視点でト
イレを考える」では、浜田



皆様をはじめ多くの方々
のご協力があればこそ
と、この場を借り御礼申
しあげます。アンケート
の集計も終わり、近々報
告書も完成しますので、
皆様には詳しい内容をお
伝えできると思います。
(三浦 久子)

集住協働住宅

50歳以降のライフデザイン どうなる? どうする!



12月定例学習会

平成5年12月4日(土)
パルパローレ(設計事務所)
代表・NPOサ
ポート結 理事長 山
口 雅子氏

背景 茹で蛙にならないう
めに 私設計事務所では
主に高齢者・障害者の住宅
設計を手掛けてきました。
NPOサポート結は2年
目になります。これまでに
850人ほどの年寄りと談
して思いましたが、70〜80
は年寄りではない。70〜75
でシニア、75〜80でようや
くジュニア老人、80超が老
人といえるのです。老人は
病気になるれば病院へ行きま
すが、治っても家族がいれ
ばいいけれども、一人暮らし
では帰るところがなく、
老健や最後は特養、また病

院と、転々とせざるを得な
くなります。
60で定年を迎えて住まい
を変える人気の第1は生活
費の安い海外、2番目は自
然豊かな田舎、3番目は駅
前の老人マンションだとい
います。
家族観もずいぶん変わり
ました。子どもも大人も老
人さえも家にいる時間はど
んどん少なくなり、老後、
子どもと暮らしたいとい
う人は減っています。でも一
人で生きてゆけるかとい
うと、できない。75にな
るとだれでもやると老人ら
しくなるものです。痴呆に
なっても病気がないうちは
なんとかできるが、病気に
なり、骨折でもすると一人
暮らしはできません。でも
子どもと同居して、とい
う時代ではありません。今は
子どもに投資しても回収で
きない。

「茹で蛙現象」というの
をご存じですか。じわじわ
温もると危険がわからな
い。危ないとわかった時に
はもう逃げる体力がない。
社会変化はまさにその火な

のです。
戦略的ライフデザイン
◎初めの一步は「か・き・
く・け・こ」
では、どうすれば社会の
変化に対応できるか。特に
かき考え方を考える。特に
親の考え方を考える。
きき気持ちを変える。何の
ために子供を育てたのかな
んて思わず、自分ワールド
を創る。楽しむためにどう
したらいいか考える。
くき暮らし方を変える。元気
なうちは働けばよいので
す。

けい経験知の整理。今まで
の経験知の棚卸しが必要。
こいコンバージョン(変
換)とコラボレーション。
社会にあわせて個人も変
換すべきです。そのために
は、自発・自活・自律・育
自・自覚・自治を目指すの
です。
こまでは、一人ででき
ること。しかしいづれ一人
では生きて行けない時が来
ます。
◎「集住協働住宅」
今は60〜70までの老
年を考える時代です。私の
提唱する集住協働住宅は、
一つ屋根の下に暮らして社
会家族を創りましょうとい
うものです。血縁で結ばれ
た家族や、地縁で結ばれた
コミュニティに替わって、

生き方の考え方で結ばれた
コモンズなのです。安心し
て暮らせるための経済的
生活支援のしくみと行って
いいでしょう。集まって住
み、いっしょに働くことが
できる。
共に暮らすだけならコレ
クティブハウスですが、そ
こに働く機能を付けてい
ます。キーワードはリセッ
ト・変換です。自助・互
助・補助の機能が働くしく
みのある住まいに社会家族
のネットワークがそれを補
助するのです。大家さんが
土地とスケルトンを負担
し、有限会社人人畑(にん
じんばたけ)がこれを一棟
借りして運営します。入居
者はインフル(内装・設
備)と家賃を負担する。そ
こにNPOシニア生活設計
サポート結がCB(コミュ
ニティビジネス)を実施し
ます。いわば、コレクティ
ブハウスとCBの場が合体
したようなものです。

要点は◎ハードとソフト
が統合されたシステム◎相
互依存・共有価値◎CB参
加で生産活動◎住職接近で
生涯現役◎ネットワークが
暮らしを支える。住民の、
住民による、住民のための
「終の住まい」です。
実はまだ第1号ができて
いませんが、目標は10戸で

す。そして、二番目にナ
シングホームを創ります。
これは、必ず痴呆の方がで
てくることを想定していま
す。仲間がヘルパーの資格
をとって、支える。それで
システムの完成なのです。
老人の住まいは家だけ完
壁にしてもだめ。訪問介護
でも完全ではありません。
働く機能をつけた集住協働
住宅が肝要なのです。そこ
では、5重の危機管理(自
立・助け合い・スタッフによ
る直接サポート・行政等

子ども 木工教室

平野区民まつり

10月31日(日)前日の

雨が嘘のような晴れとなり
ました。ここは2年ぶり
の参加です。様々な木片を
使った自由木工で、子ど
もたちは思い思いに作っ
ていきます。狭い場所です
のでケガのないように目配
りしながらの木工作业で
した。
一人の子が長時間かけて
色々なものを作っていま
したが、お母さんに聞く



(光川 環代)

による間接サポート)があ
り、5つの安心(自助・省
金・自立・生涯現役・個人
では防げない生活防衛)が
あります。
とにかく、社会の変化
を自覚することです。介
護保険は破綻するもの。
これから老いる私たちの
生活は、益々厳しくなる
けれども、それを逆手に
とって、もっともっと楽
しくなる自分ワールドを創
るうではありませんか。
(中北 清)

浪速区

ふれあいまつり

昨年の6月から月1回の
割で打合せを重ね、11月
13日(土)の本番を迎えま
した。私は仕事等の都合で
全てには参加できません
でしたが、有馬さん、長岩さ
んも加わっていただきました。

汽車型エンジン立って・ミ
ニハウス・ジグソーパズ
ル・自由木工を用意しまし
たが、昨年よりも人気が高
く、他のコーナーでは暇そ
うなところもありました
が、ふくてっくはほとんど
が無くなりました。ジグ
ソーパズルは準備に手間が



かかり大変でしたが、長岩
さんと協力し合い、当日に
間に合わせる事ができま
した。
有馬さんのリーダーシッ
プとみなさんの協力で無事
終えることができました。
ありがとうございました。
参加者 有馬さん・高木さ
ん・小川さん親子・長岩さ
ん・葛西さん・光川 運搬
大和建設 前田さん
(光川 環代)

池島ふれあいまつり

11月23日(祝) お天気
もよく人も最高。港区池
島公園は沢山の人でごった
がえし、木工教室も大人
気!と今回は喜んでばかり
もいられない状況でした。
今年には木工の場所が広
く、木片もいいものを多く
用意できました。自由木工
で無料、誰でも参加でき
るという事で人があふれ、
ランドシートをはみ出て
周りの植え込みの中まで人
がいつぱいいます。当然作業
台も足りないで土の上で
ノコギリを使うということ
になります。指導するにも
目が行き届かず、やりたい

参加者は3時間かけて完成
に至りました。
皆さん目標をもって取り
組むことに一所懸命でし
た。
私は依存症の人と接した
ことがなく始まるまで不安
がありました。普にしてい
ればいいことがわかり、
いい経験をさせていただき
ました。みなさんありがと
うございました。
参加者 有馬さん・池端さ
ん・光川 環代

リカバリーハウス

いちご

2月20日(土) 東住吉区
矢田の「リカバリーハウス
いちご(断酒の会)」で汽
車型エンジン立って作りを行
いました。ここはアルコー
ル依存症の方が立ち直りを
目指して活動されている会
です。
対象が大人です。下準備
をあまりせずに、なるべ



くご自分で作ってもらおう
う計画し、原木を切るここ
ろからの制作でしたが、池
端さん指導のもと約10名の

西成区民クリスマススイベン
トおもちゃ図書館パンダ
200個の手づくり
クリスマスツリー
12月15日(水) 西成区
民会館。今回用意した「小
さな木製のクリスマスツ
リー」は私たちが提案さ
せていただいたもので、関
係の皆さんから「これは白

放題です。
それでもケガもなく、み
なさん楽しんでくれたこと
は嬉しいのですが、終わっ
た後に作りかけの作品・木
片・釘・工具がそこらじゆ
うに放置してあり、疲れが
どつと出たのでした。
来年からは何らかの制限
が必要ではないかと強く感
じた木工教室でした。
参加者 有馬さん・杉浦さ
ん・池端さん・長岩さん・
光川さん・和泉 秀子
(和泉 秀子)



(和泉 秀子)

い。是非お願い致します」
の一言でお引き受けするこ
とになりました。又、ちょ
うど開催時期がクリスマス
前なので来場の方々にきつ
と「喜んでもらえる」と言
うことで200名分を用意
するよう依頼をお受けしま
した。
9月、10月頃まではな
んとかなるだろうと平然と
していました。実施に向
け準備を始めだすと、これ
がなかなか簡単なことでは
なかったのです。なにしろ
200組の材料を準備する
なんて初めてのことで、「親
子の皆さんに楽しく作っ
てもらえて、しかも可愛い出
来上がりのもの」。皆で案
を出し合い試作をしたり、
いろいろと検討の後、いよ
いよ材料の買出しに向かっ
た所、200組分はそう簡
単には揃わない。例えば飾
り付けのモール一つにして
も百円ショップを何軒も駆
け回り何とかの確保にた
どり着いたと言う状況でし
た。
さあ、いよいよ本番当
日、事前打合せのり材料の
袋詰めやらメンバーの担当
役割決め等準備OK。開場
の案内で一斉にドドッと来
場の皆さんが飛び込んで来
ました。いろいろな催しの
中、予想どおり「手づくり



メンバー 有馬・杉浦・津田・長岩・光川・池端 (池端 一義)